



ごーちゃん

庚

草

第18号

2026.7発行

タイムス



つーさくん

地域包括支援センターは地域の身近な相談窓口です

権利を守ること



介護保険や健康
について



地域の活動の場の
ご案内



保健師（看護師など）や主任介護支援専門員、社会福祉士などの専門職員が相談や支援にあたります。どうぞお気軽にご相談ください。



082-507-1210

広島市庚午地域包括支援センター
広島市西区草津東2-8-5



受付時間は

平日8:30~17:15

となっております。

駐車場は2台ございます。

No.8とNo.9をご利用ください

※職員が高齢者宅への訪問や地域行事への参加などで不在の場合もございます。
来所される際はあらかじめお電話いただくとスムーズです。

新メンバーの紹介

広島市庚午地域包括支援センターには、
4月より新しい職員が増えました。

名前：中井真由美

職種：看護師

①趣味特技は？

スポーツ観戦。ピアノ。

ピアノは2年前から習い始めました。六十の手習いです。

②最近のマイブームは？

Mrs. GREEN APPLE（ミセス・グリーン・アップル）
の曲を聴くこと。

③座右の銘は？

ケセラセラ/七転び八起き

④今後の抱負や地域の皆様へひとこと！

地域の皆様とともに健康で過ごせるよう頑張っていきます。
よろしくお願いいたします。



あなたのまちの通いの場

包括支援センターは通いの場（介護予防拠点）
の立ち上げ・運営も地域の皆様と一緒に行って
います。このコーナーでは地域の通いの場を
ご紹介します。

百歳体操
みどりの花もよう



場所：庚午みどりの家(西区庚午北2丁目5-5)1階

日時：毎週火曜 10:00~11:00

今年5月から始まったばかりの通いの場ですので
まだまだ参加者募集中！椅子に座って行う
運動なので誰でも無理なく参加できます。
参加費は無料です。お問合せや参加希望は、
庚午包括まで。(082-507-1210)

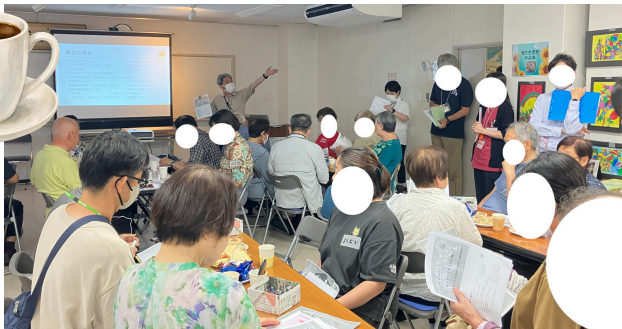
認知症フェスpart5を 開催しました

2026年7月2日（木）
14時～16時

草津公民館にて、第5回目となる認知症フェスを開催しました。認知症になっても、誰もが安心して暮らし続けられる庚午・草津の街づくりをともに「ともしびの輪」のメンバーや、地域の参加者のみなさま、認知症当事者や専門職、中学生など多くの人が集まり大変にぎやかな時間となりました。ありがとうございました！年に2回行っており、次回は1月の予定です。次回も参加をお待ちしております！



職場体験に来ていた中学生、認知症当事者の方、認知症カフェのスタッフさん達がおいしい飲み物を淹れてくれました



ぼく、
ともるんだよ。
よろしくね♪

チームオレンジ
「ともしびの輪」の
キャラクターが誕生しました



若年性認知症当事者さんとグループホームの管理者さん。対談形式で、認知症の診断が出てからこれまでの話を聞かせてもらいました

「私は大丈夫」が落とし穴かも！？ 詐欺に注意！

今多いのは 警察を名乗る電話



連日ニュースでも取り上げられているように、警察を名乗る電話からはじまる詐欺が急増しています。「保険証が不正に使われている」や「詐欺グループの持っていた名簿にあなたの名前が載っている」などと言い、個人情報聞き出そうとします。ビデオ通話で「警察手帳」を見せるなど、かなりリアルですが、すべて嘘なので要注意。

「終活詐欺」も 起こっています

高齢者を狙った終活詐欺が増えています！特徴として①強引な勧誘や高額な契約を迫る②複数の業者が入れ替わり立ち替わり接触してくるなど。中には特典を謳った高額な終活セミナーや、不用品買取などにつなげられるケースもあるようです。



被害者の7割近くが 65歳以上

R6年の特殊詐欺被害は表に出ているものだけで20,987件。そのうち65歳以上が被害にあった割合は65.4%でした。

契約はすぐに行わず
一度持ち帰って

誰かに相談してから
決めましょう。

誰に相談するか悩んだら
広島市消費生活センターへ！

TEL:082-225-3300（火・日祝休み）



編集後記
先日、わが子（小学生）のクラス懇談会にて担任の先生より「まずはお母さん方のお名前を教えてください。お母さま方の、ご両親からもらった大切なお名前をお呼びしたいんです」と言われました。はにかみながら各々名前を名乗る私たち保護者。みんな、なんだか照れ臭くて、ちょっと嬉しい気持ちだったのではないのでしょうか。

心理学用語にカクテルパーティ効果というものがあります。がやがやした雑踏の中であっても、人は自分の名前だけは不思議と聞き取れるんだとか。それだけ名前というものが特別なんですね。

私には四人の子どもがいて、いわゆるママ友も子どもの数に比例して多くなります。ママ友とは、「○○ちゃんママ」ではなく、ママの名前で呼びあおうと提案しています。そのおかげか地域の子どもたちも道で出会ったときは「あゆちゃん」と名前で呼んでくれ、なんだか私も子どもたちの輪に入れてもらえたような、若返った気分になります（かなり図々しいですが…）

名前にはご両親の思いや、歩んできた時間が詰まっています。地域で出会ったとき、年齢や立場も関係なく「こんにちは、○○さん」と声を掛け合える関係が少しずつ増えていったら素敵ですね。そんな関わりあいが生まれる地域をつくるため、私たちも励んでいきたいと思っています。（松野 鮎理）